

# 子供の繪に就いて

— 文部省主催夏期講習講演筆記 —

東京女子高等師範學校教諭

山 形 寛

幼稚園の圖畫の事に就いてお話しせよと倉橋先生からお話がありました。が私は幼児を扱つた事がないし又幼児の圖畫に就いて餘り研究した事ありません。が圖畫に關係してゐますし、少しは理解もし、多少關心をもつてゐますので、外からみた幼児の繪についてお話しやうと思ひます。多少御參考になれば幸いです。

## 一 筋肉運動の統制

さて幼児の繪をどうするか、どう言ふ風にみるか、導くか、言ひますと、まあ色々の點から、みたり導いたりしなければなりません。まづ筋肉運動の統制といふ方面からみます。こどもは満二歳位から畫く仕事を始めます。お子様をもつてゐられる方や弟妹のある方はよくお判りのことと思ひますが、この時代には意味のあるものは書きません、鉛筆を握つて紙の上をぐるぐるとぬたくります。鉛筆やクレオンを興へなければ外に出て地面に棒でもんぐをかいいたり食事の時テーブルに水をこぼしてかいたりします。兎に角紙の上には納まりません。紙の上に描くつもりでもついにはみ出してしまふのです。意志のまゝに手が動かないのです。が次第々々にそれが筋肉統制がされて來て意志の命するまゝに動く様になります。子供の時は繪を描くのも字を書くのもわけが判らないので、子供がゑを描くと言つても大人の様な心持でかくので

はないのです。物を作るのこまごまはつきり分れてはゐないのであります。幼稚園にはいろいろの保育項目がありお仕事があるが子供は各獨立したものだとして考へてはゐないので。小學校に入りますころの教科の別がありますが低學年ではまだあまり家庭生活さかけ離れてゐるのでそれを改めねばならぬといふ運動があるのです。ですから幼稚園では猶のこまごま氣持の上で各々區別がありません。唯手を動かすこまごまに快感があるのです。

筋肉運動を二つに分けるこまごまが出來ます。一つは基本筋肉の運動で足、手、首を動かす運動。もう一つは指や顔面筋の運動。この二つが統合してうまく發達して行くべきものであります。人類が今日の文化を築いたそのこまごまは人間の手の細かい筋肉によつて色々の器械が作られた事に依るのであります。が細かい筋肉のみが發達して大きい基本筋肉が發達しないこまごま人間が弱くなります。生活力さか、體を丈夫にするには基本筋肉を發達せしめねばなりません。又細かい筋肉が發達しないこまごま頭腦の進歩がないのです。一體に勞働者は大きい筋肉のみ發達して不器用で頭腦が悪いのです。顔の表情をみても判ります。顔面筋肉の發達の程度でわかります。子供の運動の種類さ大人のそれを較べてみますこまごま子供の方が遙に種類が多いのです。生後十三ヶ月の子供には自發運動、反射運動、本能運動があり、停止運動、發表運動、熟慮運動さへあるこまごまひます。その中では自發運動が一番著しいので大人よりずつこまごま多くなつてゐます。進化論の説に依るこまごま、人間が母の胎内に宿つた時から大人になる間には單細胞動物から人間に至る進化のあまをくり返すものだこまごま言ひます。子供の時代は未開野蕃な時代に當りますから大人よりも運動の種類が多いのです。しかし確實性がありません。運動さ運動さの間に競争が起り必要なものだけが確實になり發達するから不必要なものはなくあります。所が赤ん坊の時この統制がこれないこまごま文化人類に不必要な運動が残つてゐる病的になるこまごまがあります。頭を揺す人があつたり耳を動かす人がたまにあつたりします

みんなも昔はそうだったが、必要がないから退化して今は一般に動かなくなつてゐます。捨て、置いて、も統制はされて行くが、周囲から仕向ける運動が確實になるのです。そして、あゝ後世に役立つ様になります。鉛筆をもたせても紙の外へ出ない様になります。線を縦横に眞直に引くには、可成りの統制力を必要とします。地平線をかくのは肩のコンパスで畫くのですから、少々孤になるのもあたり前ですが、段々統制をこつて眞直にかけるやうになつて行くのです。我々が意志の命ずる儘に動けることは、非常に大切なことであつて、ゑを描くことのみによりません。遊戯や日常の仕事の間にでも筋肉統制が出来ます。が、これも子供のいやがる仕事をさせても駄目であり、喜んでする仕事で統制をこらなければなりません。低能児にはいきなり智識の方から入ることは、駄目で筋肉の方から入れる可きであります。幼児にも次第々々でなくては、いけません。さうして十二歳位までに大體統制がされて來ます。それ以前の子供は、兎に角有意運動が固まらないのです。目をつぶつて直立してゐることか、後へ歩むことか、つま先やかゝで立つことか、三十分以上正座することか、はむつかしいのです。式で、ちつと座つてゐることなど、幼児には無理なことなのです。遊戯や體操をするのも、強制してはいけません。統制でなくて害があります。そこを適度にして行きます。段々に統制がされて紙にぬたくつてゐたのが意味をもつたものを、畫く様になつて來ます。

一體、體のどこに精神が宿つてゐるか、いふ事は、中々むづかしい問題です。昔は頭にあると言つてゐました。あの人は頭がよいとか、わるいとか言ひます。心配事がある、頭が痛いと言ふ、又胸にある、いふ人もあれば、腹にある、いふ人もあります。が、今ではむしろ筋肉の到る所にある様に考へられてゐます。我々が一つの活動をするのには、さう言ふことが必要であるか、言ひます。先づ外から刺戟が來ます。目、耳、舌、鼻、皮膚などから、感覺器官を通して、神經中樞に傳へます。する中樞は、それに對應する運動器官に命令します。そこで運動が起るのであります。昔は中樞が基だと言つてゐました。

がこの三つは次々に關聯して動くので運動感覺を鋭敏にさせることは精神の方を強くさせることになります。手で描くといふ働きによつて目や其他いろいろの感覺がはたらいいて中樞の働きを發達させるのです。仕事のコツを覺えるといふことは考へてするのでなく、すうつこしてゐる中に筋肉が覺えるのであります。殆ど反射的に運動する様になつて行きます。テニスや野球の練習も皆筋肉に覺えさせるのです。この點から筋肉に精神がある様に考へられるのです。十二歳を越しても段々發達しますが筋肉修練は小さい時からやらねばなりません。殊に發音なきさうで、小さい時の練習が大切であります。方言は直つても發音は仲々きれません。發音、手技どれも幼稚園の時からその興味を以てしなければなりません。

そこで子供が段々に意味を有つたものを書きますがそれも客觀的妥當性はないのです。自分ばかり判つてゐて、人がみては判らないのですが一つの意味のある表現をします。例へば子供は二階を描くことを好みますが梯子段を一本宛畫いてそれで二階だと言ふのです。何でも意味から行きます。この主觀的表現は尋常三年位まで残ります。四年になる心理料なきもあるようになるので段々に客觀的になつて行きます。

幼稚園、低學年の圖畫は上手下手は問題ではない、唯喜んで畫いてゐる中に筋肉が發達して來るのです。

## 二 表現欲の高潮

繪を喜んでかく様にするにはどうしたらよいかをお話しませう。繪をかゝせることの利益價值は多いが喜んでかく様にならなければなりません。大體の子供は喜んでかきます。それは想像力を働かす上から、又本能きしてもつてゐるからで

あります。

この問題を二つの方向から考へてみます。一つは造形衝動を持たせることであり、これは形のあるものを作りあげる衝動であります。子供は生れ乍らに發動する傾向をもつてゐます。それを發達させることが繪を喜んで畫くやうに導く要點であります。この造形衝動は誰でも生れ乍らにして持つてゐますが刺戟を與へないで發達しないものであります。ならばどんな刺戟を與へるかと言ひます。これには物質的環境をつくればよいことになります。いくら子供が中にもつてゐても何にも周圍になくは出来ません。物を與へなくてはならないのです。畫用紙と鉛筆、クレオンがあると言ふことに依つて子供は喜んで自ら畫く様になります。外に出ても棒切があれば地面に畫きます、幼稚園ではこの點總てそろつてゐますし、又そろつてゐなければなりません。繪本があり、子供の描いた繪があり、クレオンがあり、畫用紙があり、粘土あり積木ありと言ふ様に。これは決してむづかしい事ではなく心掛けがあれば容易なことあります。そしてこの物質的環境がミ、のひ、造形衝動が刺戟されて繪を描いてゆくミ段々創造が行はれてゆく様になります。今日の文化は皆これによつて出来たのです。創造させることは非常に大切なことあります。

第二のものミして仕事の衝動があります。これは手足を働かせて纏つたものを作り上げ様ミする衝動であります。これもミの子供でも大抵もつてゐる衝動であります。これには物質的環境を作つてもだめで、社會的環境が必要であります。子供ミいふものは親が百姓で畠を耕すのをみてゐるミ子供も外で親のまねをして畠をもつて畠を耕す。女の子は姉が裁縫するミまねする。原稿を書いてゐるミ四つ五つの子がそれを欲しがつてコマを何かかいてはうづめる。誰か側で仕事をす

るこまねして仕事をする。これには然し人間が必要で、人間がなければこれは發達しないのであります。昔は學校教育がなかつたから商人はその子を自分の力で一人前の商人に育て上げたわけであります。これは子供に仕事の衝動があるからで、それ程面倒なこころではなかつたのでありませう。小さい時から商賣をするこいふ氣持が養はれるのであります。まゝご遊びは家の者が料理して御飯を炊くの見ても眞似をするからであります。仕事の衝動なのです。そのよしあしは別として社會的環境をつくるのです。うんミカのある先生は教授法を無視しても教育が出来ます。ミいふのは先生が勉強するから自然生徒迄出来る様になります。生徒を通じて先生の力を知ることが出来ます。教授法的研究、畫の研究をしてゐる先生の生徒は手が上ります。即ち先生は子供ミ一しよと一緒に描き、子供ミ一しよに遊戯し、手技をしなければなりません、子供ミ一しよになつて、子供の氣持になつて喜んでしなければなりません。社會的環境を作らなければなりません。共に跳ねまはつたりして遊んでやらねば全然先生の値打がありません。幼稚園では子供ミ共に遊べる先生も、又反對に別な先生も必要ですが、お仕事なごでも教へる様なのでなく一緒に楽しんでする様にしたいものであります。

かうして刺戟して仕事をした結果は次の仕事の衝動を刺戟します。仕事の興味を覺えるミ尙更その仕事をしないでゐられないミいふ様になるのです。仕事をする性分ミいふのは若い時からこんな風にして來た人なのです。繪が描けなくてきらひいな様な子きもには馬が兎になつてもいゝから子供ミ一しよに畫いてゐる中好きになるのであります。

### 三 色いふ

昨日クレオンの色について質問を受けましたのでその答へをするこいふ意味で色のこころを少しお話いたしませう。

色の名にも色々ありあつて、商賣に依つて同じ色のちがつた呼び方があつたりして中々にむづかしいものであります。和田三造氏が色の名前を統一しやうとして色名帖といふのをつくられました。これは日本標準色協會で發行してゐます。

かうして選んでみても色々いふものはむづかしいもので同じ色の染料を用ひても布地によつて感がちがふし、同じ色のクレオンでかいても紙質によつて感がちがつて來ます。そこで幼稚園ではごんな色をえらんでごにも使はせたらよいかと言ふ事になります。小學校の場合でも文部省で教科書に色を用ふ場合に色々苦心してゐます。小學校でも色々研究されましたが、第一に子供の好きな色をえらぶ事にしたのです。そこで子供の好きな色を調査した所が、茶か黒かかを好まず、赤、紫を好みます。がこれ等は日本の風物の寫生には適しません。そこで第二として太陽スペクトルの色といふ案も出しましたが、色彩教育上はよろしいが、出すのにむづかしい、よく出たにしても鮮明すぎる、そこで第三として日本の風物を描くのに都合のよい色をえらぶといふ事にしました。それによつて小學校で用ふ色は、教科書の一頁に出てゐますが、赤、青、空、黄、緑、カーキ色(印度の語で泥土の意)茶、黒の八色を小學一二年の色とします。三四年になるご色數がふえます。八色の他に黄ばんだ緑、即ち草色、橙色ある色、こげ茶、鼠色の五色を加へます。幼稚園では色數の餘り多くない方がよいのです。この時代にはデリケートな色彩觀念はないのですから色數を多くするごたゞ混亂するばかりです。大體八色位が適當と思はれます。序にクレオンはごんなのがいゝかご申しますごの1、軟いもの、2、色彩の鮮かなもの、3、書いた感の粉つぼく見えぬもの、等です。クレバスは少しベタ／＼して感がよくありません。展覽會等に出すには明瞭に現れていゝが非常に減り易く不經濟でもある。クレオンは染料的な感じでピカ／＼して品がない。その點色鉛筆は顏料的の感で上品でありますが折れ易く、それに削るのが大變です。

顔料や染料にはごうしてもスペクトルの様な純粹な色は出ません。水も蒸餾水は美味しくない様なもので色も混り氣が

あつて始めて味はひがあるのです。従つて名前もはつきりしません。緑と青を混同したりしてはいけません。

#### 四 思想内容擴充

そこで昨日のお話のつゞきにうつります。

こゝで言ふ思想といふのも近頃やかましくいはれてゐる様なものではありません。子供のもつてゐる考へ方や精神生活の内容をいふこゝでこれも擴充するやうにしなければならぬのです。こゝに子供のかいた繪がありますがまづ年長組の子供のかいた繪について内容をしらべてみました。單に一度かいただけでも可成り色々の材料をみてゐますから相當豊富な思想内容をもつてゐるこゝが解ります。又男兒女兒でちがふ事もわかります。試みに表にしてみます。

内 容	男兒(84)	女兒(47)
自動車	14	0
飛行機	12	0
電車	6	0
タノク	3	0
船	14	5
汽 車	(軍艦多シ)	(ボート)
動物	11	5
家	ろンキ	(トリ 猫)
樹	らリス犬オタ	8
人	のキタ	6
山	ラ魚	21
出		(女ノ子ヲカク)
日		3
花		2
		13

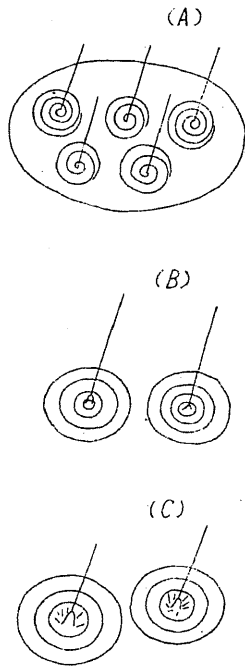
上の表でも判るやうに男兒は動的なものを描き女兒は靜的なものを多くかきます。これをもつて數多くしらべたら面白いと思ひます。一人の子供に就いてみますと三人を描く子はいつも人、家を描く子はいつも家といふ様に大抵同じ繪を描いてゐるのぢやないかと思ひます。一人の子供の描く繪の材料の範圍は餘り廣くはないだらうと思はれます。以前に私が小學校低學年をもつてゐた時毎日子供の好きなものを描かせてしらべて見た事がありましたが大抵始めの

三、四回は同じものを描いても次からは違つたものを描く様であります。無理にちがつたものばかり描かせる必要はない



のですが次第にかはつたものをかゝせる様に導き度いものであります。そうしなければ思想内容を廣くすることが出来ません。自然に異ふものをかく様にしむけるのです。ちがふものをかいた時「あなたはこんなものも描けるんですね」といふ様にする。よし非常に拙くても褒めてやります。するまじ色のものが描ける様になります。

小學校では、幼稚園から來た子供の方が家庭からすぐ來た子供より上手であります、上手にかいても將來伸びる子も伸びない子もあります。繪本をみてかいた様な一つの形式を持つたかき方をする子供は尋常二三年で止つて伸びませんが拙くても自然を見て、即、實感から描く子供は伸びます。繪本的な繪をかいてるて伸びた子供は私の知つてゐる範圍では二人しかありません。成るべく實物を見て描かせる様にし度いものです。地味な繪を描く子は伸びます。



子供は觀察が鋭敏で中々おもしろいのです。もじ或小學生が池の面に雨が降る繪を描いた事がありました(A)。するまじ次にはうづ巻でなく、輪にして足を一寸もり上らせました處(B)他の子が先生ちがひますと云つてピツ／＼はねる所を加へました(C)。一體都會の子供は小伶俐ですが大してよく觀察してゐなく斷片的なものをもつてゐますが基本的なものをもつてゐません之に反して田舎の子供は一つのものをよく觀てゐます。都會の子供のやうに象や河馬は知らないが年中見てゐる牛については習性迄よく知つてゐるまじふ様なものです。

都會の子供はよく知つてゐる様で案外知つてゐません。附屬高女の入學試験に梅と竹の葉の區別を言はせたら梅には葉が

ないこ答へた子がありました。又尋常一年生に太陽三月のちがひを言はせた處ある子供はお日様には棒があるがお月様には棒がないと言ひました。又お顔が異ふと言つた子供もあります。これは太陽から直接得た感を言つたものではありませぬ。観察から出發したものを描かせ度いものであります。近頃はやりの流線型でも極端なものが多い様です。繪本やお手本なご見て覺え書きする子供があるからです。もう少し幼稚園で觀察をしつかり行ひ度いものであります。

次に幼稚園では小學校の教育を受けるに都合のよい様に身心を發達させるいみで尋常一年では何ういふこころをしてゐるかをお話いたしませう。圖畫の教科書こいふものも段々變遷して來てゐます。はじめ毛筆畫帖こいふのがありましたが、明治四十年頃に新定畫帖こいふのが出來ました。之は當時心理的だこいはれてゐましたが、今から見ると論理的であります。まづ水こ空の繪、これは手を軽く左右にうごかす練習です。次に上下にうごかす練習で森をかく、次は斜に動かす練習で山を描く。こいふ様なものであります。その中に自由畫も少し入つてゐました。大正七年頃山本鼎こいふ人が臨畫を排斥して自由畫をやらせた、實物から、又想像でかくせる畫であります。それで次第に自由畫が盛になり、昭和七年に現在の項目が出來たのであります。その内容は、一年生で一學期の始こ終、十二月の終、三月の終に一回づゝ好きなをかゝせるこいふのがあり、他は皆題目を決めて思想畫、圖案、寫生、をやらせてゐます。併し餘り時間に自由畫を描きものますから相當に自由畫はしてゐるわけです。まづ始めから題目をあげてみます。

### 第一學期

1、自由畫、2、ヒノマル(臨畫ではない、門にかゝげた様にかゝせる)。3、お日様、4、圖案(花を並べる)、5、好きな花、6、風船玉、7、木が生えてゐる、8、走れ自動車、9、玩具の電車(寫生でありますが一年生では思想畫の

區別がつかないのです。けれど實物ミ結びつけるさいふ點効果があります。10、葉を列べる、11、色紙の畫(色紙をむしつてはりつけた繪)、12、川あそび、13、おふねが通る、14、橋がある、15、好きなもの。

## 第二學期

1、廣い野原、2、提灯、3、立つてゐる人、4、桃太郎、5、山と海、6、お月様、7、圖畫(三角四角)色紙を並べる、8、夕焼小焼、9、繩飛び、10、美しい秋、11、學校の門、12、好きな家、13、赤いリンゴ、14、好きなもの。

## 第三學期

1、お正月、2、おもちゃの寫生、3、兎、4、火鉢にあたつてゐる、5、明るい電燈、6、雲だるま、7、飛行機、8、好きなもの。

以上一年生には隨畫はなく思想畫多く寫生圖案が少くなつてゐます。二年になるミ寫生が増し思想畫が少くなります。三年になるミ寫生が多くなり用器畫、及隨畫がはじめて出て來ます。四年になるミ思想畫又少くなり寫生が増します。五年では思想畫は一、二回になります。六年では生活指導さいふ意味から圖案が多くなり高等科では一層圖案が多くなります。

## 五 幼兒及兒童の繪の特色

(一)まづ子供は直觀したものをそのまま再現することは殆どありません。あちこちから見聞したものを羅列的に描くのです。自分の生活内容を渾然とかくのです。種々の觀念の聯合したものを羅列的にかくさいふのが子供の繪の特色であります。子供は紙の真中からかき始めて、次々ミかいてゆきます。一から二、二から三、ミかいて行きますが一ミ三ミの關

係はさうあらうかまはないでゐます。又それを咎める必要もないのです。

(2) 子供は畫に於て大ききの比較がむづかしいのです。尋常三年位から大ききを注意し始め、四年頃では皆大ききの關係を注意するやうになります。

(3) 大人は畫面を客觀的にみますが子供はその繪の中に自分が入つて了つてゐます。ですから未來派の繪の様なのがあるのです。

(4) 繪の約束さいふものも知らず、何にもさらはれずにかきますから、感じたまゝ卒直に純粹にかきますから純一であります。この純一さが尊いのでありますからこれを失はない様に指導しなければなりませんし、こゝもの繪を見るにも、色や形の巧拙より、感さ純粹なものか否かを見るのが大切であります。

今日は猶一つだけ注意すべき點を申しませう。それは個性的な表現を獎勵したいさいふことです。

個性は先天的なものですから教育の力で後天的に全然かへる事は出来ません。三つ子の魂百迄さいふ諺もある位であります。しかし導き方に依つてよくない個性を抑制し、よいものを伸して行く事は出来ます。子供は、殊に幼児は個性が固定してゐません。はつきり出来るのは女の子の方が少々早いが大體大人になる前、十七八歳位です。しかし個性の表れはあります。子供の繪でも甲の子乙の子の一本の線の描き方にも差異があります。その個性を見出してこれに合ふ様によく導く事が大切であります。殊に圖畫は個性がよく表れ、認め易いからこれを認めて伸してやらねばなりません。

そこで個性とは何か言ひますと、學問的にはむづかしが個人と他の個人を區別されるべき性質であります。こゝにゐる五百人の人は皆同じ様で、甲乙丙の違ひはごくわづかでありますがよく見るにみんな違つてゐて間違ふ事はない。

それが個性であります。犬と人とを持つてくるは随分異ふけれども人同志では共通普遍性があります。その中で又特殊の性格があります。物の考へ方や見方にも普遍的性質と、特殊の性質とがあります。この特殊の性質を伸ばす事が大切な事です。が普遍的性質を阻害するわけではなく共通普遍性の上に立つて特殊性を伸ばすのです。我々が世の中に存在する意義は各々特殊な性質を持つてゐるからです。他人にまねの出来ぬものがあるからです。それで個性を伸ばすことは人間の存在價值を増す事になります。

個性は又微妙なもので、一本の線にも皆異つた味ひがあるものであります。例へば同じ北宗派の人であるから共通點があるべきですが、雪村と雪舟では大變ちがふ様なものです。又大和繪の方でも信實の線は他の人が真似の出来ない線であります。有名な三十六歌仙の線を見るにやさしいが、この中に非常に強いものがあり、誰も真似の出来ない味ひがあるのです。幼児の繪でも線の動きが一人一人特徴があり味ひがあります。その各自の個性を展ばして面白い味ひを尊重してやらなければなりません。

## 六 模倣と創造

これは一見反對のここの様に思はれますがそうではないのです。子供は模倣性の發達したものであります。子供はよく隣の子のをみてかきます。本能的に模倣します。しかし一面から見るに創造性に富んでゐます。模倣性は將來發展を來すものでありますからこれは尊重しなければなりません。創造性をより以上に伸ばさねばなりません。模倣と創造は密接な關係があるものです。人間が行動を起す時は模倣の要素と創造の要素とがあります。個性があり、創造するのですから創造する機會を多くする事が大切であります。模倣性の強い子供は、創作的なこころをした時、褒めてやる様にして段々に創造

性を増してやる様にしたいものであります。子供の繪をみるにも子供らしいものか否かを見るに同時に創造的要素の多いか少いかをみる事が大切であります。

## 七 結論

こゝで幼稚園の圖畫をどうするかをまごめめます。幼稚園でする圖畫は手技等と區別を設ける必要はありません。そして遊戯的にし、出来るだけ描く機會を與へるのです。一枚づゝ批評するの必要はありません、澤山の中から面白い繪はみんなに見せるよよいと思ひます。子供にみせる繪は子供の繪を、上手下手でなく着想の面白い繪をみせるよよいのです。同じものばかりかいてゐる様な子供は趣のちがふのをみせ適當に指導します。又描かない子供にはかゝせる様にやさしいものから、始めはぬる丈けでもいゝから段々にかいて見せたりして描くやうに導きます。繪本を見て描くのもよいが觀察したもの、記憶してゐるものを描く事を本體とし度いものです。殊に實物を見てかゝせ度いものです。その場合は先生も一緒に寫生します。先生が寫生してゐるに黙つてゐても模倣性の盛な子供は喜んでかきます。

こうして描く事の外に色紙や色テープをちぎつて貼り紙で表すのも面白いものです。又木の葉さか、木の實さか、色紙の打抜いたもの石コロ、豆、マツチ、等を並べたり揃へたりして圖案的な遊びをするのも面白いこゝです。これに似たのではキシゴムかコルクで色々な形の判をつくりスタンプを押して模様遊びをするのもよよいこゝです。こんなのは店屋ゴッコの飾り等に面白いものです。塗りゑもいゝものです。或輪畫の中に塗るのですから機械的ではありませんが筋肉統制、整頓、注意力を養ひます。この他形を描いて色を塗つて切る仕事もあります。型紙にうつしてから切るのでもよよいのです。

最後に繪を見せるよいふ事をする事です。小學校中學校では中々やかましく言はれるこゝですが、これは廣く美的觀念

を養ふのが目的で繪描きにするのではないのです。物のつり合ひなきがわかる様になります。幼稚園時代から斯うした美感を養ひ度いものであります。それにはよい繪を見せる事が大切であります。額を掛けるにしても成可く本物の立派なものをかけ度いものです。印刷物でもよいものならよいと思ひます。よいものをみせるに知らずくの中に子供達はそれから感化を受けるものであります。アメリカではミレーの種まきの繪を子供にみせ、その形を細くさせて氣分を味はせ、段繪を見る氣分を養ふこいふのもあるのださうです。先生が描いてみせるのもよい事です。兎に角よい繪を見たり、よい音をきいたりする事は、たゞへ判らなくてもよい影響を與へるものであります。よいものを觀賞させる事は非常に大切な事であります。(以上文責在編輯部)

#### 第七回世界教育會議が來昭和十二年八月

一日より凡一週間、東京に於て開催せられます事は皆様もお聞及びご存じます。

その就學前教育・幼稚園部では倉橋主幹が連絡委員にて、既に數回委員會を開かれ、着々ご準備を進めてゐられる由であります。尙詳細が決定されましたらば本誌上に發表の豫定であります。

#### 遊戯の歌と曲

「系統的保育案の實際」の中の遊戯の歌と曲を全部便利に一まごめに致しましたものを筆記代用としてこしらへました。附屬幼稚園にて用ひてをりますが、まごごに重寶でございます。御希望の方には實費金五拾錢にておわけいたします。當協會宛にお申込み下さい(代金は郵券にてお送り下さるもよろし)。

尙講習の折の遊戯曲目は全部おわけしてしまひました故御承知下さい。